

公益社団法人 日本雪氷学会北海道支部 第4回理事会（議事録）

1. 日 時

2021年3月24日（水）15時30分～17時30分

2. 場 所

北海道開発技術センター 会議室 （セントラル札幌北ビル4階）

3. 出席者

出席者：石井、尾関、小倉、松下、千葉※、小西、櫻井※、石川※、廣川※、舘山※、山野井※、飯沼※、日下（13名）

委任状：イセンコ、今西（2名）

オブザーバ参加：松澤※、高橋※、東※、大島※（4名）

進行：尾関、 記録：松下 （以上、敬称略。※オンライン参加）

4. 議 事

（1） 第3回理事会の議事録について（報告）

- ・ 小倉理事より、第3回理事会の議事録について説明が行われた。

（2） 雪氷災害調査チームの活動について（報告）

- ・ 山野井理事より、雪氷災害調査チームの今年度の活動として、シーズンミーティング、研修会、講演会の開催および雪崩災害調査の概要等について報告が行われた。
- ・ 雪氷災害調査チームの調査対象である山岳リクリエーションに関わる雪崩ではないが、今月2日に北海道の国道で同時多発した雪崩について、「北海道の雪氷」への掲載など記録として残した方がよいとの意見があった。

（3） 地域講演会について（報告・審議）

- ・ 舘山理事より、今月の開催を予定していた地域講演会について、これまでの検討の概要と中止の判断に至った経緯について報告が行われた。
- ・ また舘山理事より、今後の地域講演会について、感染症による現在の状況が収まるまでは対面形式の現地開催を一時休止し、動画配信などオンデマンド形式を前提としたイベント（例えば、雪氷講座）の実施が望ましいとの提案が行われた。
- ・ この提案に対して審議が行われ、来年度は、地域講演会の現地開催にこだわらず、オンデマンド形式でのイベント開催を積極的に検討することとなった。

（4） 次年度の総会、研究発表会について（審議）

- ・ 石川理事と廣川理事より、2021年度の研究発表会の開催案について説明があり、開

催形式（対面、オンライン、ハイブリッド）について審議が行われた。

- ・ 審議の結果、現在の感染症による社会情勢を鑑み、完全オンライン形式で開催することが決定された。開催日は、すでに支部 HP で告知している 2021 年 5 月 28 日と 29 日とする。なお懇親会の開催はなしとする。
- ・ 総会はメール審議とし、5 月中旬に 1 週間程度の審議期間を設けることが決定した。
- ・ また、次年度の第 1 回理事会（顧問と評議員の決定）は総会后にメール審議とし、第 2 回理事会と顧問・評議委員会は 6 月初旬に開催するスケジュールとすることが決められた。

(5) 総会提示資料について（審議）

- ・ 小倉理事より、総会提示資料の案について説明が行われ、小西理事より、監査報告は 4 月になることが説明された。
- ・ 2021 年度の事業計画案のうち、北海道雪氷賞の授賞式の開催について審議が行われ、オンライン形式で開催することが決定された。
- ・ 総会資料について、庶務担当理事が、2020 年度事業報告のうち開催中止となった項目の記述方法の修正と、2021 年度事業計画案の研究発表会や総会などの開催形式の変更に伴う修正を行い、理事 ML を通じて修正内容の確認をすることとなった。

(6) 2021 年度の役員案について（審議）

- ・ 尾関副支部長より、次年度の役員体制案について説明が行われた。審議の結果、反対の意見はなかった。次年度の理事は、5 月の総会に諮り決定する。
- ・ 次年度の評議員と顧問については、庶務担当理事から今年度の評議員と顧問に連絡をとり、継続の依頼と交代の場合は後任者の推薦をお願いする。次年度の評議員と顧問は、次年度の第 1 回理事会で審議し決定する。

(7) 2022 年度雪氷研究大会について（審議）

- ・ 北海道支部が担当となる 2022 年度雪氷研究大会について審議が行われ、2022 年 9 月に北海道科学大学を会場として開催の準備を検討することとなった。
- ・ 今後、準備委員会を立ち上げ、今年度の雪氷研究大会の開催状況もみながら、開催形式や体制等について検討を進めることとなった。

(8) その他

- ・ 石井支部長より、支部表彰規程の改訂が本部理事会で承認されたことが報告された。
- ・ 今年度の理事会は今回で最後となるが、次年度の研究発表会や総会に向けた準備について、理事 ML を通じて随時検討していくことを確認した。

以 上